

### 3. 水 環 境

公共用水域等の水質調査を、河川42地点、海域4地点、池7地点、地下水8地点で実施した。

カドミウム等の健康項目については河川33地点、海域・池・地下水は全地点調査を行った結果、すべての地点で環境基準を達成していた。

公共用水域の生活環境項目については、河川の環境基準適合率がpH100%、BOD81%、DO98%、SS100%であり、平成14年度と比べて改善が見られた。梅田川で昭和50年3月の類型指定後初めて環境基準を達成し、すべての水域で環境基準を達成した。

海域においては、CODがC類型地点で環境基準に適合していたが、B類型地点では適合しなかった。



河川水質環境基準点（梅田川御厩橋）

#### 表の見方及び表記方法

ア.「平均値」は日間平均値の年間平均値である。

イ.「適合率（検体数）」は、「環境基準に適合の検体数 / 総検体数」を示す。

なお、同欄中環境基準に具体的数値が規定されていない項目、環境基準の水域類型が未指定の地点及び環境基準以外の項目については「 - / 総検体数」と表示している。

ウ.「適合率（日数）」は、「環境基準に適合の日数 / 総測定日数」を示す。

なお、通日調査は総測定日数に含める。

エ.「75%水質値」は、年間の日間平均値の全データ（n個）をその値の小さいものから順に並べた時（DOについては値の大きいものから順に並べた時）、 $0.75 \times n$ （整数でない場合は直近上位の整数）番目にくるデータをいう。

たとえば、次のような11個のデータがあった場合には、

1.3 1.4 1.5 1.5 1.6 1.7 1.8 3.1 3.2 3.5 3.6（単位：mg/l<sup>○</sup>）

$0.75 \times 11 = 8.25$  切り上げて 9

小さい方から数えて9番目のデータ3.2mg/l<sup>○</sup> 75%水質値

オ.海域中「全層」は、表層（海面下0.5m）、中層（海面下5.0m）の水質の平均値をいう。

カ.生活環境項目に係る環境基準達成状況の判定は、河川では水域内の環境基準点におけるBODの適合率が75%以上のとき達成と判断する。一方、海域では、CODについては同様に環境基準点での適合率が75%以上のとき達成と判断するが、全窒素及び全リンについては環境基準点での表層の濃度の年間平均値が環境基準値を満足しているとき達成と判断する。

なお、複数の環境基準点がある場合はすべての基準点が基準を満足したときに達成と判断する。

図2 - 生 - 7 水質汚濁に係る環境基準の水域類型の東三河における指定状況



(1) 水環境の状況

ア．公共用水域の調査結果

健康項目（有害項目）

河川33地点、海域4地点、池7地点において水質の調査を行った結果、すべての地点で環境基準を達成していた。

また、水底の底質を河川6地点、海域4地点において調査した結果、水銀及びPCBについての「底質の処理・処分等に関する指針」を超える地点はなかった。

河川の生活環境項目

42地点で調査を行った結果、環境基準が定められている河川（豊川、豊川放水路、梅田川、佐奈川）の環境基準適合率は、次表のとおりであり、平成14年度と比べBODの改善がみられた。

年度	項目	B O D	pH	D O	S S
15		81%	100%	98%	100%
14		71%	99%	98%	100%

河川別の調査結果は次のとおりである。

a 豊 川

BOD環境基準を達成していた。なお、本市域における環境基準適合率は、BOD92%、pH100%、DO97%、SS100%であった。

地点別のBOD75%水質値は、三上橋2.5mg/1ℓ、当古橋0.5mg/1ℓ、下条0.6mg/1ℓ、吉田大橋0.7mg/1ℓ、渡津橋1.6mg/1ℓであった。B類型の環境基準点である吉田大橋で環境基準(3mg/1ℓ以下)を満たしていた。

b 豊川放水路

BOD環境基準(C類型:5mg/1ℓ以下)を達成していた。なお、前芝大橋における環境基準適合率はBOD100%、pH100%、DO92%、SS100%であり、BOD75%水質値は3.0mg/1ℓであった。

c 梅田川

BOD環境基準(C類型:5mg/1ℓ以下)を初めて達成した。環境基準適合率は、BOD62%、pH100%、DO100%、SS100%であり、BODの適合率は前年度の40%から改善した。

BOD75%水質値は、飛越橋7.8mg/1ℓ、沢渡橋5.9mg/1ℓ、御厩橋4.9mg/1ℓ、植田橋5.3mg/1ℓであった。

d 佐奈川

BOD環境基準(D類型:8mg/1ℓ以下)を達成していた。なお、浜田橋における環境基準適合率はBOD92%、pH100%、DO100%、SS100%であり、BOD75%水質値は2.5mg/1ℓで環境基準を満たしていた。

e 柳生川

類型指定なし。BOD75%水質値は、柳生橋5.0mg/1ℓ、上富田橋6.1mg/1ℓ、市場橋4.3mg/1ℓ

f 豊川支川(間川、神田川、朝倉川)

類型指定なし。BOD75%水質値は、間川1.5mg/1ℓ、神田川3.5mg/1ℓ、朝倉川1.1mg/1ℓ  
海域の生活環境項目

神野・田原地先海域(C類型)は、COD環境基準を達成したが、渥美湾(甲)(B類型)は達成しなかった。本市域における環境基準適合率は、概ね横ばいであった。

年度	項目	C O D	pH	D O	全窒素	全 燐
15		73%	85%	94%	44%	19%
14		77%	96%	100%	40%	15%

類型別にみると、神野・田原地先海域(C類型)の適合率は、COD94%、pH89%・DO100%であり、渥美湾(甲)(B類型)では、COD0%、pH92%、DO75%であった。また、全窒素は4地点中2地点において、全燐は4地点すべてが環境基準(全窒素Ⅲ類型:0.6mg/1ℓ以下、全燐Ⅲ類型:0.05mg/1ℓ以下)を超えていた。

④ 池の生活環境項目

7地点の調査を行った結果、COD(平均値)8mg/1ℓ以下が3地点(前年度1地点)、全窒素(同)1mg/1ℓ以下が2地点(0地点)、全燐0.1mg/1ℓ以下が3地点(1地点)であった。

イ. 地下水の調査結果

定点4地点、単年度調査4地点の計8地点において環境基準が定められているカドミウム始め26項目の調査を行った結果、すべての地点で環境基準に適合していた。